

一 般 健 康 診 断

受診者数の推移

平成19年度の一般健康診断等の受診団体数は、平成18年度と比べ横ばいであったが、受診者数は約2万件増加、政府管掌健康保険生活習慣病予防健診については、受診団体、受診者数ともに微増であった。各検査項目（法定項目）についても、平成15年以降、ほぼ全ての項目で増加傾向が続いている。

有所見率の推移

胸部X線：平成16年以降、「異常なし」の比率は女性の全ての年代で減少傾向が続いているが、男性の若年者（～49歳）では平成19年度でやや増加した。「年1回定期観察」「要経過観察」の比率は、男女全ての年代で増加傾向が続いている一方、「要精密検査」の比率は若年者では横ばいか減少、50歳以上では増加傾向である。

血圧：収縮期血圧、拡張期血圧の平均値は男女とも全年代で平成18年と比べやや低下した。「正常範囲」の比率については男性の全年代と女性の40歳以上で微増、女性の39歳以下では横ばいであった。収縮期血圧90～99または拡張期血圧140～159の「要経過観察」の比率は女性の29歳以下を除く男女すべての年代で減少したが、収縮期血圧100～または拡張期血圧160～の「要注意」「要受診」の比率は男性40～59歳と女性39歳以下でやや増加、それ以外では減少した。

肥満度：肥満度の平均値は平成17年以降、男性では29歳以下で減少傾向、その他の年代では横ばい、女性では40歳以上の年代で減少傾向、29歳以下で横ばいであった。肥満度～21の「やせ」の比率は平成15年以降、男性の29歳以下で増加が続いている一方、女性の29歳以下では横ばいで、30歳以上の全年代で増加傾向であった。肥満度31～の「肥満」の比率は男性40～59歳で増加傾向である一方、女性の全年代で横ばいであった。

貧血検査：男女とも「異常なし」の比率は全年代で減少か横ばいである一方、「要二次検査」と「要受診」の比率は平成16年以降、増加傾向にある。「要経過観察」の比率は平成17年以降、男女とも全年代で横ばいであった。

肝機能：「異常なし」の比率は平成15年以降、男性の全年代と女性の49歳以上で増加傾向、女性の39歳以下は横ばいであった。「要経過観察」の比率は平成17年以降、男女とも全年代で減少傾向、「要二次検査」の比率も平成15年以降、男性の全年代で減少傾向、女性の全年代では横ばいであった。「要受診」の比率もここ3年ほど男女とも全年代で減少が続

ている。

脂質検査：「異常なし」の比率は平成17年以降、男女とも50歳以上でやや減少傾向である。「要経過観察」の比率は平成17年以降、男性の40歳以上でやや増加傾向、平成14年以降、男性の29歳以下で減少傾向が続いている。女性は全年代で横ばいである。

「要二次検査」の比率は平成17年以降、男性40～59歳で減少傾向、女性の50歳以上で増加傾向であったが、それ以外の年代では横ばいであった。「要受診」の比率は男性40～59歳と女性の40歳以上で平成16～18年にかけて増加していたが、平成19年は減少に転じた。男性30～39歳と60歳以上では増加が続いている。

聴力検査：「所見なし」の比率は平成17年以降、男性の40歳以上でやや増加傾向、男性39歳以下と女性の全年代で横ばいであった。「所見あり」の比率は平成16年以降、男性の40歳以上でやや減少傾向、男性39歳以下と女性の全年代で横ばいであった。「1kHzのみ所見あり」「4kHzのみ所見あり」「1.4kHzとも所見あり」の比率は「所見あり」の比率とほぼ同様に推移している。

心電図検査：「異常なし」の比率は平成17年以降、男性の29歳以下と40歳以上、女性の59歳以下でやや減少傾向、男性30～39歳で横ばいであったが、女性60歳いじょうで平成18年と比べやや増加した。「ほぼ正常」の比率は平成16年度まで男性29歳以下を除いて減少傾向が続いていたが平成17年以降、増加傾向が続いている。女性は全年代でほぼ横ばいであった。「要経過観察」の比率は平成14年以降、男性の30～39歳を除く男女の全年代で増加傾向が続いていたが、平成19年度は減少に転じた。「要受診」の比率は平成15年以降男女とも全年代で減少傾向が続いている。

糖：「異常なし」の比率は男性の30～39歳と男女60歳以上を除いて減少傾向が続いているが、平成19年度は男女60歳以上で増加に転じた。「ほぼ正常」の比率は、平成16年度まで男性の前年代で減少が続いていたが、男性は平成17年度から、女性は平成19年度からやや増加に転じている。「要経過観察」の比率は平成13年以降、男女とも増加傾向であったが、平成19年度は減少に転じた。「要二次検査」の比率は男女とも平成17～18年にかけて現象傾向であったが、平成19年度は女性の39歳以下、50～59歳を除いて増加に転じている。「要受診」の比率は平成15年以降男女とも全年代で減少傾向が続いており、平成19年度は女性40～49歳と60歳以上で微増した以外は減少が続いている。

関係の集計表は104頁に掲載